

そもそも「年金」とは？

年金の考え方と論点の整理

細野真宏

●テーマ1 年金の「ひっかけ問題」とは？

⇒「未納が増えると年金が破綻する」「今の少子高齢化で年金が破綻する」

そもそも「スタート地点」で誤解が起こっていた

「今の年金制度を変えずに済むならそれにこしたことはない。
だが保険料の未納付増加で制度は破綻する可能性が大きい」
(日経新聞 2008年1月7日付)

峰崎直樹・現内閣官房参与

「7-8年前、私もメンバーになって作ったときは、年金制度を一元化して税でまかなえば、未納、未加入の問題は解消すると考えた。しかし、昨年、社会保障国民会議で、年金財政は未納、未加入問題では破綻しないと示された。

民主党案では、年金保険料を納め終わった世代が、さらに年金のための消費税を納める『二重の負担』が生じるし、不安定雇用労働者の年金問題も当面、実現されない。

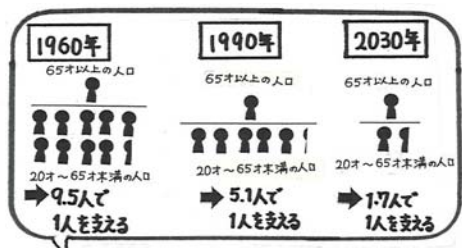
全額税方式にしたら、企業が負担している年金保険料3・7兆円分が、サラリーマン層も含めた国民に転化される。消費税率で1・5%にあたる巨額な企業負担をなくすことは、誠に惜しい。考え直した方がいい」
(産経新聞 2009年7月10日付)

現行制度で国民年金の納付率の前提を
置き換えた場合の見通し(名目額)

基礎年金給付費				
納付率	2009年	2015年	2025年	2050年
90%ケース	19兆円	23兆円	28兆円	57兆円
80%ケース	19兆円	23兆円	28兆円	56兆円
65%ケース	19兆円	23兆円	28兆円	55兆円
うち保険料負担分				
納付率	2009年	2015年	2025年	2050年
90%ケース	9兆円	12兆円	14兆円	28兆円
80%ケース	9兆円	12兆円	14兆円	28兆円
65%ケース	9兆円	12兆円	14兆円	27兆円

※保険料の負担分は、各制度から基礎年金給付費のうちの保険料負担分を示している。
(出典：社会保障国民会議)

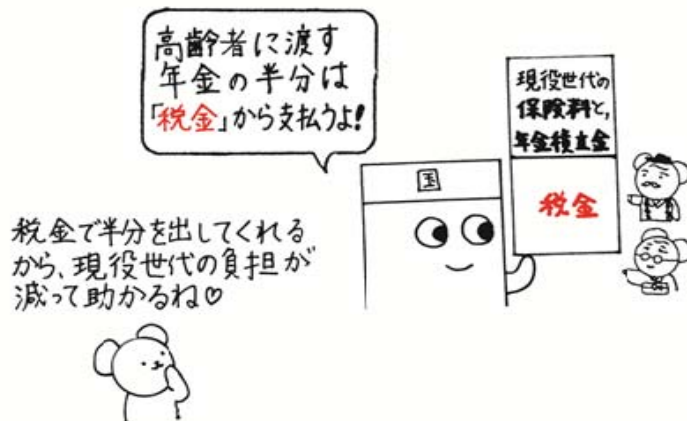
⇒未納が増えても、年金の
財政には殆ど影響はない！



単純にこんな図を見ると保険料が
上がり続けると思ってしまうけれど、
きちんと保険料の上限を考えた上で
計算されているんだね

●テーマ2 年金の「未納問題」の本質は？

⇒そもそも「未納・未加入者」が存在すること自体がおかしい



○所得があるのに「未納・未加入者」になっている

⇒「税金の払い損」の状態になっていて、**本人が損**をしている

⇒「金融・経済教育」を機能させることで、誤解を解いていくことが重要

○所得が少なく「未納・未加入者」になっている

⇒「保険料の免除制度」を活用することで、自分の将来を守ることが重要

国民年金の免除制度

免除種類	所得基準		
	単身世帯	2人世帯 (夫婦)	4人世帯 (夫婦と子ども2人)
全額免除	収入122万円 [※] (税控除後では57万円)	収入152万円 [※] (税控除後では92万円)	収入257万円 [※] (税控除後では162万円)
3/4免除 (1/4納付)	収入158万円 [※] (税控除後では93万円)	収入229万円 [※] (税控除後では142万円)	収入354万円 [※] (税控除後では230万円)
半額免除 (半額納付)	収入227万円 [※] (税控除後では141万円)	収入304万円 [※] (税控除後では195万円)	収入420万円 [※] (税控除後では282万円)
1/4免除 (3/4納付)	収入296万円 [※] (税控除後では189万円)	収入376万円 [※] (税控除後では247万円)	収入486万円 [※] (税控除後では335万円)

〈出典：厚生労働省〉

※「未納・未加入者」が障害年金をもらえなくなっている社会問題も！

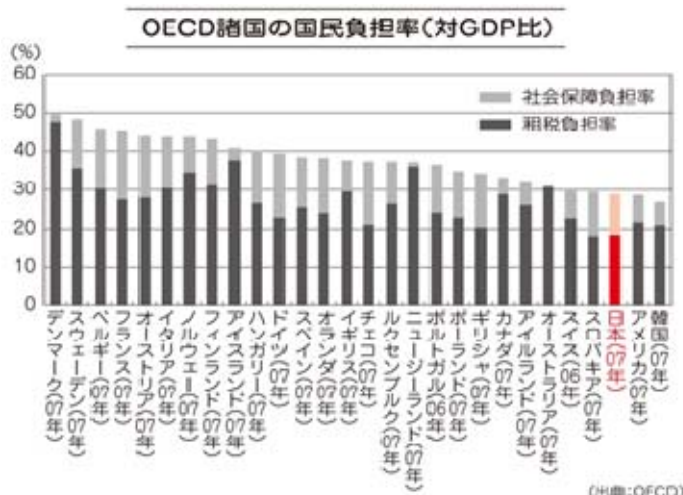
国は、“国民の将来”を守るために「金融・経済教育」を機能させ、

「**未納者ゼロ・キャンペーン**」を打ち出すことが重要！

●テーマ3 「年金が少ない」という話の本質は？

2009 年の「財政検証」の結果、現役時代に払った保険料に対して、実質で「国民年金」の場合は平均で1.5倍以上、「厚生年金」の場合だと、2.3倍以上に増えてもらえる（もし国の年金を民間と同じ基準の「名目」で考えると、「国民年金」の場合は、現役時に払った保険料よりも年金は約3倍以上に増え、「厚生年金」の場合は、約4.5倍以上に増えてもらえることになる）

どの世代でも「増えてもらえる」のに、なぜ「少ない」という声が出てくるのか？



Point 1

年金の保険料が少ない

＝手元に残る預貯金が多くなる（そのぶん年金は少なくなる）

Point 2

そもそも日本の年金は、「年金だけで生活していける」という位置づけの制度ではなく、あくまで

「老後の生活の基礎」的な意味合いが強いものである

●テーマ4 実は「年金制度」は、意外とシンプル

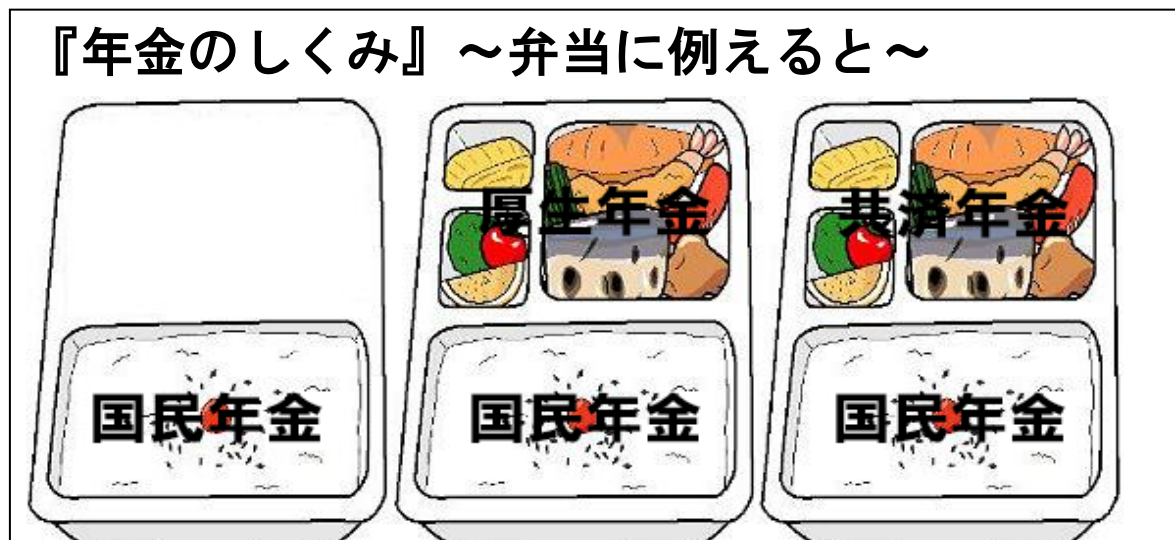
日本の年金 ⇒「老後に国から死ぬまでもらえるお弁当」

●自営業者

⇒定年がないので、“保険料を安くして、最低限のお米だけもらえるようにしよう”という位置づけ

●会社員、公務員

⇒定年があるので、(国民年金より)多めに保険料を払い、将来、「おかず付の弁当」をもらえるようにするもの



さらに、将来「おかず付の年金」が欲しいという自営業者のために「国民年金基金」という“積み立て方式”の制度も用意されている

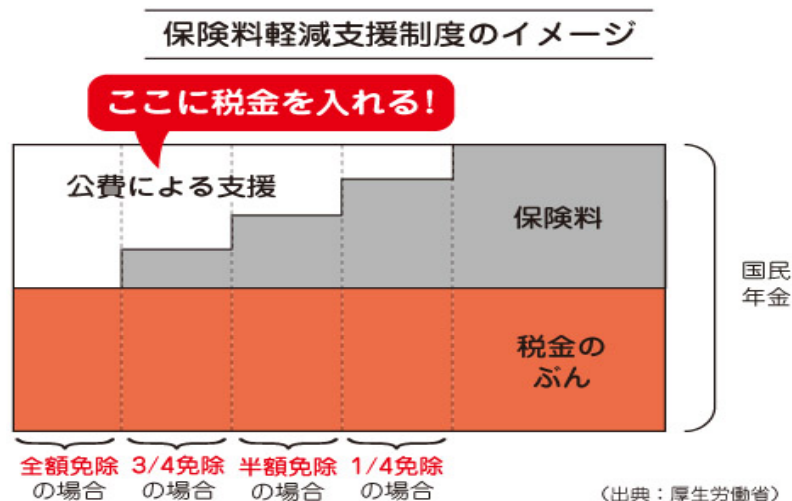


⇒収入に合わせて、自分で保険料を自由に増やせる仕組み（最高で 68,000 円）

追記

なお「最低保障年金」のように一定額の年金を保障する仕組みは、
以下のような方法で、現行の年金制度でも導入は可能。

しかし、この場合でも「所得捕捉」の問題が出てくることになる。



※ 図表とイラストは『最新の経済と政治のニュースが世界一わかる本！』
(文藝春秋 細野真宏・2010年)より転載